

駿建

2017 Apr. vol.45 No.1

日本大学理工学部建築学科 日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科

SHUNKEN

Quarterly Journal of

*Department of Architecture, College of Science and Technology, Nihon University
& Department of Architecture and Living Design, Nihon University Junior College*

Special Future

建築学科へようこそ!

40人の先生を知る
2つの質問.

Special Future


建築学科へようこそ！ 40人の先生を知る 2つの質問.

2017年度のはじまりです。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。2年生以上の皆さんは進級おめでとうございます。今回の特集では、先生全員に自己紹介をしてもらうことにしました。日大は学生数が多い分、先生も多く、だからこそ、さまざまな分野の研究室があり、多様な講義があります。

けれども、授業を受けているだけでは、建築学の広がりわかりませんよね。だから、今回の特集では、まず、それぞれの先生がどんな授業を担当しているのかについて聞いてみました。「自分ならどんな分野に興味がありそうかな？」そんなことを考えるきっかけにしてみてください。

一方で、大学の先生って、皆さんにとっては少し遠い存在ですよ。先生が日々どんなことを考えているのかなんて、なかなか知るよしもあります。そこで、先生たちが最近ハマっていることについて聞いてみることにしました。これまで先生に対して持っていたイメージが、少し変わるかもしれません。何か気になるエピソードがあれば、それをきっかけに先生に話しかけてみるのもいいと思います。意外と先生たちは、話しかけてみると気さくにいろんなことに応えてくれるはずですよ。

興味がありそうなことがあったら、調べてみる。興味がありそうな先生がいたら、話しかけてみる。大学生活のちょっとしたきっかけに、この特集がなれば嬉しいです。



どんな先生がいるのかな？
どんな授業があるのかな？
パーソナルにも迫る
40人の先生への2つの質問.

- Q1. 担当している授業のうちひとつを、
どんな授業か、どんな面白さがあるかを教えてください。
もしくは、お仕事の内容について、教えてください。
- Q2. この1年で、はまったモノ・コト・場所などを教えてください。

建築学科へようこそ！40人の先生を知る2つの質問。

今村 雅樹 [教授]

建築設計論Ⅱほか



「再生」とは何か？

Q1. 私が担当している「建築設計論Ⅱ」は、毎回世界中の「パブリック空間」の写真を見ながら行う授業なので、海外旅行をしているような感じです。ガウディのサグラダファミリアなどの有名な建築は、今や「世界遺産」「重要建築物」などになって、一般の人たちでも知っている時代になってきました。私は専門家として、どうしてそのような建築がパブリック性を持っているのかを講義しています。

Q2. 私の最近の活動の中心は、「再生」とは何か？を考えることにあります。実際の設計活動では「熊本県医師会館」を熊本城の真前に位置するお堀端に建設しています。大地震があつて石垣が崩壊したことであつたり、モダニズム建築を壊して建てることを考えています。現在、建設中の「駿河台校舎・(仮称)南棟」や、これから続く「(仮称)北棟」は、古い校舎の建替え計画です。そのときに重要なのは、歴史やその時代の成立の仕方などと向き合う心だと考えます。隣地の「ニコライ堂」との共生を考え、震災や戦火からの東京復興計画を紐解き、これからの東京をどのように描くことがよいのか……。すべてが何を「再生」させるのかということであり、建築家が考えなければいけないことと考えているこの頃です。

パウハウスにて。モダニズムの建築家たちは何を考えて新しい社会に挑戦していったのか……。プライベートも「建築」です。

宇於崎 勝也 [教授]

都市計画Ⅰほか



地域環境の調査

Q1. 私が担当している「都市計画Ⅰ」は、都市計画の概要を学修します。都市計画は、狭義には都市計画法に規定される事項といえますが、他にも理想都市の変遷や都市を形成する技術などと関係することが多く、講義の範囲は広いです。なぜ、本科目が必修なのか？ 建築の技術者として建築物を単体からとらえるだけでなく、建築群・地区を構成するひとつの要素という視点を持ってもらいたいからです。

Q2. 私は最近、趣味らしきものがなく、何かを熱心に収集したり、美味しいものを食べ歩くこともないため、皆さんから見ると、あまり豊かな生活とはいえないかもしれません。ただし、休日には女房と2人で外出し、買い物や食事をするのでリフレッシュしており、これは続けています。話は変わりますが、大学教員の社会貢献のひとつに、地方公共団体の審議会などの委員があります。この1年でいくつかの団体から委員の委嘱があり、新たに引き受けました。都市計画ばかりでなく、建築や景観などに関するものもあり、それぞれの地方公共団体の状況や特徴をふまえて審議・審査・提言をせねばならないため、事案については、周辺環境を含めてよく調べてから会議に臨みます。よりよい都市環境の形成に少しは役立っていると自負しつつ、地域環境の調査にはまっているのかもしれないと思っています。

フィルムにあるル・コルビュジェの競技場(1968)で400mを完走。高校時代は陸上部だったんです。

岡田 章 [教授]

初等構造力学ほか



カリグラフィ用ペン

Q1. 私が担当している「初等構造力学」は、構造設計の役目と夢と楽しさを知るキッカケになれば、と願ったオリジナル科目です。取っつきにくいと誤解されることが多い構造力学の入門とも位置づけられます。基本コンセプトは、自然と身につけている構造感覚を刺激し、それをもとにして構造力学の入り口まで導く、というものです。この授業はまだまだ完成形には至っていませんが、1年生全員が参加できる教材を工夫しています。

Q2. 私は最近、カリグラフィ用ペンにはまっています。といっても、このマイブームはだいたい5年周期で訪れます。5年前はペリカンの万年筆M800のイタリック・ライティング(1B)というペン先にはまりました。ペン先は扁平で、横線を細く、縦線を太く書くことができ、クリエイティブなワークにピッタリの万年筆です。困ったことに限定発売だったため、手に入れられたのはわずか2本。何のインクを入れるか、長い試行錯誤の末、プラチナのカーボンブラックと、プライベート・リザーブのタンザナイトに落ち着きました。さて、今回はロットリングのアートペンのカリグラフィ1.5mmに夢中になっています。ペリカンと違って、スチールペンだからとにかく安い。とりえず、7本買って7色のインクを入れています。今度は、どの色を使って、何のテーマで、どんな気分で、何に書く(描く)のか、悩んでいます。

1975年、建築展実行委員長のときのポスター用写真。建築系大学連絡会の同志、早大のスマートなポスターをバロったもの。

佐藤 慎也 [教授]

建築計画Ⅱほか



徒歩通勤

Q1. 私が担当している「建築計画Ⅱ」は、ビルディングタイプごとの計画について話をします。限られた時間ではすべてのビルディングタイプを説明できないし、時代によって、社会から求められるものは変化します。そのため、いくつかのビルディングタイプを取り上げ、社会の変化に伴い、求められる計画も変化することを示し、その他にも応用できる考え方を身につけます。社会に対する建築の持つ意味を考える面白さがあります。

Q2. 私は最近、徒歩通勤にはまっています。自宅から大学までの片道3.2kmを、40分くらいかけて歩いています。理由は健康のため、ということもなく、朝と夜、街を歩きながら考えごとをする時間に使っています。毎朝、不忍池の横を通りながら満開の桜や蓮、凍った池を眺めたり、湯島天満宮の境内では鳥居をくぐるときにお辞儀をする人たちとすれ違ったり、夜は疲れてぼーっと歩くことがほとんどですが、朝とは違った人や街に出会えます。行き帰りには、やはりこの1年で買ったApple Musicが欠かせません。いわゆる定額の音楽配信サービスですが、過去のものから最新リリースまで、CDを買ってまでは聞かないようなものも楽しめます。歩くスピードで街を見ると、常に新しい発見があります。みなさんも1度くらい、自宅から、せめてひとつ隣の駅まで歩いてみませんか。

さいたま市のケーキ屋で買ったパンをバスの中で食べているところを写真家の川瀬一絵さんに撮られた。



Q1. 私が担当している「特別講義・デザイン論」は、構造・設備・材料・歴史・計画・設計といったさまざまな分野の内容を「デザイン」という視点を通して捉え直そうという意図の科目です。建築学科に入学した皆さんは、3年次までに分野ごとに細分化された科目を通して学修するわけですが、それらを最後に「建築」として統合して理解することが重要ではないかと考えています。

Q2. 私は最近、海外の建築を訪れる旅をしています。この1年で、海外研修旅行の引率も含めて11カ国を訪れ、この3月には、地球の裏側、ブラジルまで足をのぼしてきました。やはり建築は実際に見ないと理解できないことが多いですし、再度訪れることで以前には気づけなかったことが発見されたりもします。そのときの自分の知識や能力に応じた見え方をします。その際に重要なのは、その時代にどのような意図と技術でつくられたかを想像してみると、すべての文脈を取り払って虚心坦懐に対峙することという2つの見方を同時にすることです。そうすることで、古い建築であっても、現在に通ずる建築に対する態度を共有し、自分の財産とすることができるように思います。東京にも見るべき建築はたくさんあります。皆さんもぜひ近くの建築から足を運んでみてください。

アメリカ視察旅行でPRADA MARFA (アート作品) にて。建築家の河内一泰さん(左)、福山博之さん(右)と。

Q1. 私が担当している「建築史I」では、日本古代から近世まで、施主や棟梁たちの実現した建築を図面と写真で解読しています。建築は人の視覚に訴える手段ですが、古代から現代と同様な見せ方・見え方をしていたわけではありません。寺院では、仏像、僧侶、信者へと重視された主体が変化し、室町時代以降から武士と町人の建築へと推移しました。それらが現在まで、手法の再構築と反転によって続けられたことが面白いと思います。

Q2. 私は最近、いろいろな民家を訪れるようになりました。学生時代には民家の実測をしましたが、研究の手段でしかなく、特別な思い入れはありませんでした。民家に比べて社寺は、時代を象徴する技術や選ばれた素材が使われています。何よりも、誰が見ても美しく感じさせる建築の力がありました。やはり国宝に指定されている建物は違うと感じていました。ところが、還暦を過ぎた頃から、創建期の間取りや現代に至るまでの生活の息吹が感じられる民家に関心を持つようになりました。社寺解読の成果かもしれません。部材の斬(ちょうな)削りの跡やさまざまな仕口やその痕跡が、生活の改良を図ろうとする家族の会話や職人の吹きとて聞こえてきます。そうした愛着とは別に、民家も創建時の状態が美しくて力強いと感じてしまいます。生活の利便性追求のための改造は、建築に何を与えるのでしょうか。

世界遺産登録後に外務省文化無償で建設したミーソン・サイトミュージアムで展示コンセプトの説明をしている姿。

Q1. 私が担当している「建築史II」では、ヨーロッパの近代建築の流れを紹介していきます。ル・コルビュジエやライトなど巨匠といわれる建築家をはじめ、欧米各国で花開いた多彩な建築デザインを見ていきます。日本と異なる文化や風土の中で、建築には何が求められていたのでしょうか。19世紀末から20世紀初頭にかけて、世紀転換期の時代や社会を読み解きながら、そのデザインの背景を探っていきます。

Q2. 私は最近、竹橋の東京国立近代美術館でトーマス・ルフという写真家の展覧会を見て、とても不思議な感覚におそわれました。さまざま題材が扱われていましたが、その中に「l.m.v.d.r.」というシリーズがありました。l.m.v.d.r.とは、ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエの頭文字で、ドイツ人の建築家の名前です。この建築家の作品写真を撮るよう、ルフは依頼を受けます。しかしルフは、新たに撮り下ろすのではなく、誰かによって撮影され、すでに知られている写真をデジタル加工することで、作品イメージをまったく別のものに変えてしまいました。水平・垂直の直線で美しく構成された建築が、近眼の人が眼鏡を外して見たときのように、ボヤーと輪郭が曖昧になった写真に……。まるで建築と写真のちょうど中間にあるかのような、写真という表現手段の不思議さ、面白さを感じた展覧会でした。

海外出張の折、スイス・チューリヒの中央駅にて。

Q1. 私が担当している「鋼構造」は、3年生後期の必修科目です。まず、鋼構造デザインの実例を紹介し、有名な建築家と一緒につくった作品もあります。また、鋼構造特有の骨組みの構成や、どのようにして部材の大きさが決まるのかを演習を含めて学びます。基本原理を理解し、建築デザイン、設備デザイン、施工計画に活かすことで、よりすばらしい建築を創造することができるのが鋼構造です。

Q2. 私は最近、トレッキングにはまりかけています。まだまだ麓周辺のハイキング程度です。昨年、妻から「ゆっくりと休めるプランがあるから、夏季休暇に裏磐梯へ行かない？」という誘いがありました。五色沼も散策するかもしれないので靴なども用意するかという話になり、早速トレッキング・シューズとザックを購入し、いざ、裏磐梯へ。当初のゆっくりプランはどこへやら、結果、運動部の合宿のような日々でした。麓周辺や五色沼などを自転車も活用して歩き回り、日常生活では味わうことのできない自然や五色沼の不思議を感じることができました。合宿万歳！ まだ観光のレベルを脱していませんが、次は尾瀬や上高地だと考えています。トレッキング・シューズは、歩きやすく疲れにくかったので、大雪被害調査や積雪のフィールド観測にも活用できそうです。

桧原湖から磐梯山を望む。

建築学科へようこそ！40人の先生を知る2つの質問。



Q1. 私が担当している「建築材料 I」は、建築の構造に必要な材料を学ぶ授業です。この授業では、構造材料として、鋼材、木材、コンクリートについて学びます。これらの材料については、さらに「建築生産実験」で実際にその性質を見てもらいます。特にコンクリートは、建築技術者が開発できる唯一の材料です。これをどのようにつくるのかが「ものづくり」の原点であり、建築材料学の面白さの第一歩となります。

Q2. 私は最近、型枠にはまっています。型枠は、古くからコンクリート工事に欠かせないもののひとつです。でも、コンクリートの打込みが終わるとその役割も終わってしまいます。この型枠にこだわって博士後期課程の学生と研究に取り組みました。特に在来型枠工法における壁型枠は、コンクリート用型枠合板、セパレータ、プラスチック製コーン、締付け金物、内端太および外端太で構成されますが、職人さんの経験に委ねられており、パンクといった型枠の崩壊などの事故が絶えない状況にあります。そのため、それらの構成材料の間隔などを変えて実験に取り組みました。この成果を論文にするまで、かなり頭が「型枠」に染まっていました。

ガンタとミク。



Q1. 私が担当している「鉄筋コンクリート構造 I」では、通称「RC構造」と呼ばれ、マンションや学校、病院などに多く用いられている構造形式を取り上げます。授業では、その発展の歴史や特徴、設計の基本的な考え方を理解してもらうことを目標にしています。難しい理論や数式を覚えるのではなく、RC構造の設計や施工管理で必要とされる技術者としてのセンスを身につけてほしいと思います。

Q2. 私は最近、城郭建築に興味を持っています。それも、大阪城のように近代的な構造で建て替えられたものより、日本最古の天守を持つ松本城のように、戦国時代を偲ばせる古い木造建築に歴史の重みを感じます。きっかけは、島根大学を訪れた際に、知り合いの先生が松江城を案内してくれたことです。お堀に囲まれた石垣の上に建つ堂々とした姿や、宍道湖を見渡す天守からの雄大な眺めに感銘を受けました。いずれ、日本名城百選に選ばれているお城をすべて訪れてみたいと思っています。国内に限らず、海外のお城にも興味があります。これまでに、ハムレットの亡霊で有名なデンマークのクロンボー城とドイツのハイデルベルク城を訪れました。いずれも日本のお城とはまた違った魅力があり、貴族たちがどんな暮らしをしていたのかと想いを馳せると、歴史のロマンを感じます。

小田原城の常盤木門（ときわぎもん）の前にて。常盤木は常緑樹のことで、門を入ってすぐのところの松のように、永久の繁栄を願って名づけられたそうです。



Q1. 私が担当している「建築法規」は、地味ですが結構重要な科目です。その理由は6つあります。①必修です。②テキストを読んでも理解困難だから出席が必須。③建築士試験では外せない。大学ではたった1コマでも、配点は約1/4。④建築の専門科目すべてに関わる……計画、構造、環境、設備に関する具体的な技術基準が内容。⑤人々の生命、健康、財産を守るという崇高な使命がある。⑥私が1回だけ登場する2年次唯一の科目。

Q2. 私は最近、地方公共団体の審議会などにかかわる機会が多く、特にこの1年は図らずも都市のマスタープランづくりにはまってしまいました。現在、同時進行で隣接する3市区のマスタープラン策定に関わっています。市区町村が都市計画のマスタープランを策定する制度が創設されて20年経過し（目標年次は大体20年です）、ちょうど見直しのタイミングということもありますが、都市を取り巻く社会状況が大きく変わったことも要因です。人口減や財政的制約、環境問題への対応など、多様な社会の要請に応えながら、いかに持続可能な都市を構築するかが課題です。専門家だけでなく、団体代表者、議員、公募市民、行政担当者など、いろいろな立場の方々が参加する会議を運営するのも私の役割です。皆さんも、都市計画を勉強したら計画策定に関わってみませんか？

桜建サロン@クルーズスクルス新宿。建築OB交流の場。毎月第2月曜18時開催。参加したら、よい話が聞けるかも。



Q1. 私が担当している「環境工学 III」は、建築空間において快適な光視環境を実現するための方法について学ぶ授業です。一定の内装がなされた空間でも、照明の配置や配光、色温度を変えれば、異なる明るさ感や別の雰囲気を持つ空間になります。人間が光や色を感じるメカニズムの理解をベースに、空間の用途や雰囲気にあった明るさ環境や自然光採光・照明計画について具体例を示しながら説明します。

Q2. 私は最近、Blues Rock Soundにハマっています！ 3年前、John Mayerの来日コンサートへ行き、素晴らしい彼のPerformanceを体感してからギター魂が再燃！ こんなギタリストになりたい！ こんなフレーズが弾きたい！ と感動を胸に会場を後にしました。感動は起動力?! その数日後には（彼も敬愛する）Stevie Ray VaughanのSignature Stratocasterを買い（笑）、いま私の愛器となっています。Bluesy Soundを目指して日々練習中。ギターの出音をアレンジするためのエフェクター収集にもはまり、時折楽器店に足を運んで物色しています。そんな中、現在製造中止になっているレア物 Over Driveを手に入れました。ザラっとしながら芯のある温かい歪！ 求めていた音がSPから出た瞬間、幸せな気分が満たされました。Soundの追及はまだまだ続きそうです！

愛器を胸に Wah Peda を踏みながら Blues Rock を試奏中。足元にはお気に入りのエフェクターが並ぶ。



秦 一平 [教授]

対地震構造ほか

子どもの野球

Q1. 私が担当している「対地震構造」は、免震構造物や制震構造物が地震に対して、どのような効果があるのか、また、その設計方法はどのようにすればいいのか、について興味を持ってもらえるように授業をしています。授業内容は非常に難しい分野ですが、興味を持ってもらえるように、模型や体験、見学学習を取り入れています。課題レポートのフォロー講座も行っています。

Q2. 私は最近、子どもの野球にはまっています。はめられている？ 息子の所属する野球チームでコーチと事務と所属連盟の理事などを務めており、年々役割が多くなり、土日祝日は大変です。私は高校まで野球をやっている、プロ野球選手になろうと日々努力していました。でも、高校時代にレベルの高さを思い知り断念しましたが、ひとつでも何かを追いかけたことで、今の人生に役立っています。野球経験者ということで、昨年までは低学年チームの監督もしていました。しかし、いつのまにか子どもが野球をする姿を見られなくなっています。なぜなら、大学の先生ということでチームの全体を見る裏方になり、今では野球人口を増やすために連盟で日々努力しているからです。この頃、運営側は難しいと痛感しています。将来、子どもに野球をやらせてみたいと思ったら、いつでも相談受け付けます。

野球指導中（自分の子どもではありません。）



蜂巣 浩生 [教授]

建築設備Iほか

ボウリング

Q1. 私が担当している「建築設備I」は、2年次後期の必修科目です。機械系・電気系分野とも関連しますが、建物を利用する日々の生活において、我々が快適・安全・便利に過ごすためには欠かせない要素です。建築設備が何のために、どんな配慮をしながら建物に取り込まれるべきなのか、基本的な事項を取り上げながら、できるだけわかりやすく解説します。

Q2. 私は最近、ころがしに行けていません。それはボウリングです。突然ですが、ボウリングが好きです。決して上手いわけではないですが、学生のようにパワーでドカーンという時代は、とうの昔に過ぎ去っているので、静かに静かに、ボウルの軌道修正を自問自答しながら調整して、淡々と投げ続けるのが私のスタイルです。これはけっこう奥が深い。でもマイボールなんてものは持ちません。とはいえ、最近時間が取れず、なかなかころがしに行くことができません。卒研生と研究の合間をぬってボウリング大会で盛り上がるのがとても楽しい時間です。たまに卒業生が挑戦に来てくれます。そんなときは、勝負の後のビールがとても美味しいです。

静かに静かに、淡々とボウルの軌道修正をし続ける。



古橋 剛 [教授]

振動工学ほか

進化論ほか

Q1. 私が担当している「振動工学」は、建築物の動的な耐震設計法の基礎を学ぶ授業です。建築物の構造設計では、法律や仕様でその性能を担保する設計ではなく、設計の自由度の高い性能設計が重要であるとされています。今日、地震活動期を迎え、これからの超高層建物、免震建物、制振建物は、動的な性能設計が必須となります。授業では、こうした設計で求められる振動理論を初歩から学びます。

Q2. 私が最近ハマっているものを順不同で紹介します。【1】進化論：人間誰も年齢を重ねると歴史に興味を感じるようになるようです。私の場合、最近、地球の生命の38億年の歴史、すなわち進化論にはまっています。遺伝学の啓蒙書からはじまって、ネオダーウィニズムの論客達、社会科学への応用、そして現在優勢になりつつあるネオダーウィニズム批判への展開と、38億年の歴史の一員として、生命の過去、未来を考えさせられます。【2】ディープラーニング：人類の未来を考える上で、地震、台風、噴火といった自然災害だけでなく、ディープラーニング技術による機械の進化も目が離せない気がします。現段階では仕事に応用できそうですが、その未来は予測不能なものがありそうです。他にも【3】ロードバイクなど多数あるのですが、紙面の都合でこの辺で終わりにします。

欧州出張の折、スペイン、セビリアのサンタフスタ駅にて。



宮里 直也 [教授]

構造力学ほか

お出かけ

Q1. 私が担当している「構造力学」は、「初等、I、II、III、IV」と続きます。建物を支える構造（柱や梁と呼ばれる骨組み）をデザインするために必要な学問です。自重と呼ばれる自分自身の重さや地震、暴風、大雪などの力が加わった際に、構造が安全かを判断するために、柱や梁などの部材における力の釣り合いや生じる力の大きさ、力の流れなどを体系的に学びます。豊かな建築空間は、構造力学の知識に基づく構造デザインなくして成立しません。

Q2. 私は最近、お出かけにはまっています。昨年度に東京から出かけた先までの移動距離を調べてみました。合計で、なんと片道約48,000kmの距離を移動していました。地球一周が約40,000kmですので、往復で地球2周半ほどの距離を移動したことになります。国内では、札幌、青森、仙台、新潟、群馬、栃木、長野、福井、岐阜、三重、滋賀、鳥取、福岡、熊本、宮崎、鹿児島、国外では、アメリカ、ドイツなどへ調査や研究、講演などで出かけました。海外と日本の違いは当然ですが、日本国内のほうが、地域ごとの自然環境や文化の違いが多いと、改めて感じています。飛行機や新幹線が年々便利になって、どこへでも昔より簡単に行けるようになりましたが、移動は「体力勝負」です。旅先では、美味しい食事ももちろんですが、人との出会いや新しい経験、発見ができることを楽しみにしています。

長さ90mを超える岩石のアーチ。アメリカ、ユタ州Moabにあるアーチーズ国立公園には、自然にできた2,000以上のアーチがあり、力の流れに感動します！

建築学科へようこそ！40人の先生を知る2つの質問。



山田 雅一 [教授]
建築基礎構造ほか

プロ野球観戦

Q1. 私が担当している「建築基礎構造」は、20%が基礎工学、80%が地盤工学という建築構造工学の中では特異な分野です。建物を支える地盤は自然の産物であり、その成り立ち、土性、環境状況などの違いによって、その強度・変形挙動は場所によって大きく異なります。このように地盤は非常に厄介な相手ですが、千差万別で個性豊かな地盤にこそ「新しい発見」があるのかもしれません。

Q2. 私は最近、久方ぶりのプロ野球観戦を再開しました。日大が読売巨人軍のオフィシャルスポンサーになったこともきっかけです。昨年は巨人軍主催の東京ドームでの「巨人-阪神」戦の3試合が日大の主催ゲームでした。私は日大デー以外にも東京ドームに足を運びましたが、巨人軍の成績は2位で終わりました。東京ドーム以外では、横浜スタジアム、ヤフオクドーム、それから野球の聖地である甲子園球場に行きました。特に甲子園は憧れの球場で、はじめてであったので、バックスクリーンから見た黒い土のグラウンドと、緑鮮やかな芝生の対比には息をのむほどの感動を覚えました。お薦めは甲子園歴史館で、バックスクリーン以外にも見所満載であり、私のお気に入りの江川卓（元巨人軍：投手）の写真や選手名板は、嬉しい再会でした。残念ながら皆さんは、大投手江川卓を知らないでしょうね。

野球の聖地、甲子園球場での野球観戦。スタジアムを埋め尽くした黄色一色の熱狂的なタイガースファンに感動！



田嶋 和樹 [准教授]
鉄筋コンクリート構造Ⅰ演習ほか

読書

Q1. 私が担当している「鉄筋コンクリート構造Ⅰ演習」は、コンピュータの力を借りずに、自分の頭と手をフル回転させて、RC造建物の構造設計にチャレンジする授業です。3年前期の科目ですが、それまでに苦勞して得てきた難解な構造系の知識が絡み合い、実際の建物の設計に活かされている様子を学ぶことができます。断片的な知識が、授業を通してひとつに融合する瞬間の快感をぜひ味わってほしいです。

Q2. 私は最近、読書に夢中です。年末年始の海外出張のために飛行機に搭乗することになり、機内での時間つぶしのためにスマホで電子書籍でも読もうかと思い立ちました。久しぶりに学生時代に夢中になった本でも読み返そうと考え、「大藪春彦」の作品を探しました。思い返せば大学1年生のとき、国語国文学を担当していた小野末男先生から大藪の代表作のひとつである『汚れた英雄』を紹介されて以来、大藪作品に没頭した学生時代の記憶が鮮烈に蘇りました。ハードボイルド小説である大藪作品には、暴力的な描写が多いため読者を選びますが、作品中に登場するストイックでタフな主人公の活躍にいつも心を奪われていました。今回は「ウェポン・ハンターシリーズ」全7冊を購入し、空の上で、主人公・星嶋弘の活躍する姿を思い描いて夢中に本を読み進める自分に懐かしさを覚えました。

2人の息子が宝物です。



富田 隆太 [准教授]
環境計画ほか

昔の音環境

Q1. 私が担当している「環境計画」は、2年次の「環境工学Ⅱ」で学ぶ音環境の応用編です。日大理工建築の環境工学では、音の授業が特徴のひとつで、ボリュームも充実しています。この特徴を活かして、この授業では、室内音響設計から遮音・設備騒音・固体音の騒音防止までの実用的な設計法を学修できます。卒業してからも、音に関する設計や施工のさまざまな場面で役立つ内容となっています。

Q2. 私は最近、昔の音環境に興味があります。平安時代、戦国時代、江戸時代、人々はどうな音環境を聞いて過ごしていたのだろうか？ということに興味を湧いたからです。ここでは、1冊の本を紹介します。『武士の絵日記 幕末の暮らしと住まいの風景』（著：大岡敏昭、角川ソフィア文庫）です。この本の特徴は、幕末の忍藩（現在の埼玉県行田市）を舞台に、尾崎石城という下級武士が描いた絵日記を著者がわかりやすく解説しているところです。普段の食事から風呂、住まいまで幅広く描かれています。暮らしの音に関する記述もいくつか紹介されています。例えば、石城が鶏を飼っていて、近所にはそれをうるさくいう者がいるらしいという記述であり、近所の騒音トラブルは昔もあったことがわかります。興味がある方は、ぜひ一読されはいかがでしょうか？

昔の音環境を訪ねて 一吉野ヶ里歴史公園環境集落ゾーン。



山中 新太郎 [准教授]
建築計画Ⅰほか

地域デザイン

Q1. 私が担当している「建築計画Ⅰ」では、建築学習の導入として、建築計画とその関連分野について総合的な視点から考えます。私が調査したインドネシアやイスラムの集落を紹介してコミュニティの原理から建築計画を考えたり、ル・コルビュジエやミースが示した近代の空間原理から建築計画を考えたりする講義もあります。2年前期に履修する建築設計Ⅱとの関連を意識して、住宅の計画についても詳述します。

Q2. 私は最近、研究室の学生と一緒にさまざまな地域を訪れています。「地域デザイン」が私の研究室のテーマですから、地方や海外に出向くことが自然と多くなるのです。現在取り組んでいる研究は、宮城県石巻市の震災復興まちづくり、静岡県下田市の歴史的なまちなみ調査、神奈川県川崎市の街区公園の調査、韓国ソウルの考試院（コシウォン）と呼ばれる公務員受験生向けの狭小住居に関する調査などです。地域デザインの研究は、まちや建築などのデザインの課題や将来のまちの方向性を検討するための現地調査が中心になります。日中はまちを歩き回って、人や建築を相手に調査をし、夜は宿に戻って、地元の料理をいただき、お酒を酌み交わしながら先生や学生たちと地域の課題や可能性について議論する。この1年はこんな調査を何度も繰り返してきました。

昨年夏、重枝先生と一緒に訪れたソウル考試院調査にて。調査はソウル中央大学と共同で行いました。



Q1. 私が担当している「構造力学Ⅳ」は、構造系の科目が豊富な日大理工建築ならではの、学部生としては進んだ内容の科目です。「構造力学Ⅲ」までは、「外力によって柱や梁の内部に生じる力を計算できるようになる」ことが目標ですが、「構造力学Ⅳ」ではそれに留まらず、構造物の崩壊を扱うレベルにまで発展し、構造に対する技術力がつきます。特に構造設計者を目指す学生はぜひ履修してください。

Q2. 私は最近、この4月に小学1年生になった一人娘と接することにプライベートな時間の多くを費やしています。赤ちゃんの頃も可愛かったのですが、いろいろなことができるようになり、会話も豊かになってきて、可愛さもひとしおです。この1年では、補助輪なし自転車に乗る訓練やピアノの練習などを一緒にしました。テーマパークなどに連れて行ったりもしますが、家のほうがいろいろと話ができて、娘も嬉しそうな顔をたくさん見せてくれるような気がします。入学準備のため、算数、漢字などを書いた「宿題」をつくって、娘が昼間やり、私が夜帰宅したら丸つけをするということもしました。英才教育の類には興味がないのですが、学びの楽しさは知ってもらいたいと願っています。いまだにお父さん大好き！な女子学生さんには、秘訣を教えてくださいたいものです。

長野県飯田市にて、りんご狩り。



Q1. 私が担当している「建築環境実験（設備実験）」は、空調機の仕組みを調べ、吹出口の風量を測定する実験です。建築設備は、なるべく利用者から目立たないように配置されているので、まじまじと空調機を見たことがない人も多いのではないのでしょうか。実験では、空調機の内部をスケッチしたり、現場で行われる風量測定を行ったりして、普段は見られない建築設備に触れて理解を深めます。

Q2. 私は最近、ジブリ作品「千と千尋の神隠し」の油屋のモデルとなった（といわれる）建物を訪れています。自宅近くの「江戸東京たてもの園」にある「子宝湯」は、入浴できませんが、建物入口の屋根（唐破風というそうです）のほか、脱衣室の折上り天井や浴室の富士山の絵はとてもインパクトがあり、なんと縁側から庭が見られる古き良き銭湯です。昨年訪れた「道後温泉本館」は、和風3階建ての建物に圧倒されましたが、複雑な造りや内部の雰囲気映画の油屋と似ていて、風呂上がりのお茶と和菓子はとても贅沢でした。また、群馬四万温泉の「積善館」は、江戸時代から続く温泉宿で、映画と同じく赤い橋を渡ると古い湯屋が現れます。どれも古い建物ですが、それぞれ趣があって、映画の1コマを思い出させる場所もあり、アニメから建築を学ぶのも面白いですね。

時間のあるときに自宅周辺をジョギングしています。ジブリ美術館前で写真を撮りました。



Q1. 私が担当している「建築計画Ⅱ」という授業は、オフィスビルや集合住宅といった近代以降に出現したビルディングタイプについて、その誕生の歴史的な経緯と、計画の方法を学ぶものです。授業の中では、設計する際に解決しなければならない問題点や工夫すべきポイントなどをたくさん教えます。学生の皆さんが取り組む設計課題とリンクしているので、スキルアップが実感できて楽しいと思いますよ。

Q2. 私は最近、皆さんもよく知っているAmazonで買い物をするとき、自動的に表示される Recommend 商品を積極的に購入するようにしています。「〇〇さんへのおすすめ」って勝手に出てくるやつです。以前は、この非人間的な感じがたまらなく嫌だったのですが、表示された本などを思い切って買ってみると、意外にも今まさに知りたかったことがそこに書いてあったりするので。私の購入履歴が分析されているからなのですが、この分析精度をどんどん高めさせれば、本に限らず、手に入れるべきモノが常に近くにある状態になるのだと思います。そのため、購入した商品をちゃんと★の数で評価し、履歴を管理するようにしています。Amazonは単なるECサイトを越えて、「受動的選択」の時代を生きる私たちの、パートナーになるのではないかと考えています。なので、今実験しているところなのです。割とマジメに。

十数年ぶりに大学時代の同級生（右）に居酒屋で再会したときの写真。ふたりの恩師（建築家の青木茂氏）が引き合わせてくれました。



Q1. 私は、大学のさまざまな行事などの運営補佐、授業（設計科目、「建築史Ⅰ」「建築史Ⅳ」）の補佐、建築史・建築論研究室の行事の企画・事務などをしながら自分の研究を行っています。学生との関わりは、歴史研の学生が中心で、歴史研の先生方と学生の間で卒業論文・設計指導を行っています。3年生以下の学生とは、オリエンテーションや関西研修旅行などの見学会で交流する機会があります。

Q2. 私は最近では、ひとりで遠出する際に、建物が古い宿に泊まるようにしています。学生の頃、名古屋の学会の翌日に研究室の合宿で軽井沢へ行くことがあり、その途中にある奈良井宿（長野県塩尻市）という宿場町に泊まったことがあります。奈良井に着いたのは夜遅く、翌早朝に出発しなければならず、宿場町を見る時間もない状況でしたが、女将さんから提案されて、新幹線のある駅まで塩尻エリアの宿場町を通るバスに乗り、最後に宿場町を楽しむことができたのはいい思い出です。当時はお金がなかったので、古い宿に泊まる機会は限られていましたが、今では少し余裕ができたので、古い建物を管理してきた宿の経営に少しでも貢献できるかと思い、調査や建築見学の機会に泊まるようになりました。行く先々で宿の方との他愛のない交流があり、それが楽しみのなっています。

研究室の同期と岐阜県多治見市の永保寺特別公開に行ったときに撮った写真。建物は国宝の開山堂。

建築学科へようこそ！40人の先生を知る2つの質問。



阪本 一生 [助手]
建築音響研究室

子育て

Q1. 私の業務は、建物内で発生する床衝撃音についての研究テーマを希望する学生に、実験、データ解析を通じて発生メカニズム、対策などを指導することで、教育・研究の支援を行っています。近年、低層木造建築、中・大規模木造建築の普及に伴い、木造の建物用途が大きく広がり、さらに床衝撃音性能の重要度が高まっています。そのため、木造構造を対象とした床衝撃音の研究を進めています。

Q2. 私は最近、子育てにはまっています。「はまっている」というよりも「追われている」という表現のほうが正しいかもしれませんが……。休日はほぼ毎日1歳5ヵ月になる息子の遊び相手をして過ごすため、この1年で休日の過ごし方がガラッと変わりました。むしろ子どものはまっているおもちゃ、テレビ、音楽などに私のはまっけてしまい、子ども向け番組の音楽が頭から離れないことがよくあります。もともとゴルフやスノーボード、筋トレが趣味で、アクティブなほうでしたが、今ではそういった趣味から離れてしまっています。子どもの成長は早いと聞いてはいましたが、できることが次から次へと増え、1ヵ月前に遊んでいた遊びの相手をする、バージョンアップしていたり、行動範囲が広がっています。これからは家族と一緒にできる趣味を見つけたいところです。

横浜アンパンマンこどもミュージアムにて息子と。

二瓶 士門 [助手]
古澤・二瓶研究室



淡路町界隈食べ歩き

Q1. 私が担当している日頃の業務は、設計の授業や、研究室における研究のサポートです。設計の授業の面白さは、見た目のよさだけでなく、設計課題を通して社会や歴史に触れること、構造や設備を統合するイメージをつかむことです。また、この授業を通して、建築家だけでなく、事業計画や制度設計、現場管理など建築に関わるすべての人がデザイナーであることを知ってほしいです。

Q2. 私は最近、淡路町界隈の食べ歩きにはまっています。学生の頃は同じ店でばかり食べていましたが、最近は帰宅の途中にネットの情報にたよらず直感で気になった店に入っています。味やコスパも大事ですが、店それぞれに歴史やコミュニティがあって面白いです。ほとんどの客が地元の住人や勤め人なので、すぐ顔見知りになります。千代田区という土地柄なのか、仕事や趣味が充実している人が多いため、話がつきません。たまに学生の親御さんに会ったりもします（笑）。お気に入りの店ができる通いはじめます、そうするとお店がもっと繁盛してほしいと考えるようになり、店側の相談に乗っている間に什器の設計を頼まれたり、友人に店を紹介したりするようになり、ある種の生態系の中に入っていき感覚が面白く、しばらく食べ歩きは続きそうです……。

低負荷で快適な住空間について、世界や日本の潮流、設計仕様の説明をしているインタビュー記事の1コマ。

堀切 梨奈子 [助手]
佐藤慎也・堀切研究室



家系図

Q1. 私は、設計の授業やクラス担任などで先生方の補佐をしながら研究をしています。また、研究室においてはゼミで卒業研究の指導を行ったり、プロジェクトの進行をサポートしたり、見学会の企画を行ったりしています。研究室の学生と関わることがほとんどですが、学校行事や見学会、設計の授業などでは、他の研究室の学生や1～3年生とも関わることがあります。

Q2. 私は最近、祖父母や両親に話を聞きながら家系図をつきました。プロジェクトのリサーチなどで、地域の人に話を聞きながらまちや人の物語を掘り下げるうち、自分自身の生まれ育ったまちや家族にも興味が湧いてきたためです。私自身はひとりっ子ですし、つき合いのある親戚も多くないのですが、いまのところ家系図には7世代128人も人が登場しています。大名の腰元、小田原の風呂屋、「人の垢で飯を食うのはいやだ」と風呂屋を廃業した息子、弓の先生、飛行機乗り、滋賀のお坊さん、歌の上手い木こり、百貨店の店長……など、郊外のニュータウンで育った私には想像もつかないほど、いろいろな場所に、さまざまな物語を持つ人がいました。また、家系図をつくるにあたり、ゆっくりと家族と話をする時間も持つことができました。

昨年の秋、瀬戸内国際芸術祭2016。男木島にて。

宮田 敦典 [助手]
材料施工研究室



糖質制限

Q1. 私の日頃の業務は、学科でいろいろと決めていくためのワーキンググループへの参加や授業補助、先生の手伝いが主な内容です。授業では、中田先生が担当されている「建築材料」や「建築生産実験」などで2年生と多く関わる機会があります。わからないことがあれば、そのままにせず、ぜひ聞きに来てください。また、自分の研究の時間も十分にいただいているので、学位取得に向けて日々精進しています。

Q2. 私は最近、糖質制限にはまっています。もともと、それほど太りやすい体型ではなかったのですが、学部4年生から徐々に太りはじめ、博士前期課程を卒業するまでに体重が10kg増えました。一昨年、写真に写った自分を見て、自分が思っていた以上に太っていたため、糖質制限をはじめました。糖質制限は、パン・ご飯・麺が食べられません。そのため、食事は、鶏肉・野菜・豆腐ばかりを食べていましたが、糖質制限は思いのほかあまり苦にならず、たった2ヵ月で体重が10kg減り、学部4年生のときと同じ体重まで戻りました。そのあと、糖質制限をピタッと止めて、数ヵ月でしっかり10kg戻りました。最近になって、またお腹周りが気になりはじめてきたので、また、糖質制限の生活をはじめています。

研究室の卒業生と行ったセグウェイゴルフ。ゴルフもはまっていることのひとつです。



Q1. 私が担当しているのは学科予算の経理事務です。いわゆる縁の下のサポーター的なデスクワークをしていますが、学生の皆さんと直接、関係のあるお仕事としては、2年生のときに参加するオリエンテーション（課外授業）の弁当代の支払いや、4年生や大学院生になって参加する日本建築学会の学会大会の交通費の支払いなどが挙げられます。

Q2. 私は、この歳になって何かに「はまったり」しないので、書くことがなくて困っていたのですが、この特集のためにもう一度よく考えてみたところ、そういえば、最近、テレビ体操にはまっていました。「テレビ体操」？ そう、あの懐かしのラジオ体操です。今でもラジオで聞けますが、Eテレで毎朝、月曜から日曜まで放送しています。健康のために、何か手軽にできる運動はないかと思っではじめたのですが、昔と同じ部分と、時代に合わせて新しくなった部分があって、結構面白いですよ。ちなみに、ラジオ体操のはじまりは昭和3年制定の国民保健体操で、80年以上の歴史があるそうです。今放送しているのは、おなじみのラジオ体操第一と第二ですが、ダイナミックな第三とか、難易度の高い第四まであるそうです。

教室事務室で今日も教員と学生の皆さんのために仕事に励んでいるところ（に見えますでしょうか?）。



Q1. 私が担当している就職事務は、建築学科へ求人をくださる企業担当者と就職担当教員との間の架け橋のような存在となり、主に事務連絡を行う業務です。「別冊駿建」に毎年掲載される就職状況データの資料作成なども行っています。その他、先生方に代わって学校（教室）推薦状の発行も行っておりますので、その際に学生の皆さんと直接お会いすることになるかと思います。

Q2. 私は最近、建築学科の卒業生とのつながりについてその大切さを感じたり、卒業生とのコミュニケーションの面白さにはまっています。私は建築学科で勤務するようになって、今年でちょうど20年を迎えます。私は建築学科の卒業生ではなく、文系の他学部出身なので、勤務当初は知らなかったのですが、建築学科では卒業生が頻繁に大学へ来校し、在学生（後輩）の就職について相談に乗ってくれたり、親密になると面接指導やエントリーシートの添削をしてくれたり、在学生（後輩）に対して卒業生が熱心に接してくれます。このようなことは文系学部にはほとんど見られませんし、他大学の建築系学科でもあまり聞かれません。また、卒業生が話してくれる実務の中で活かされる建築知識と技術は、文系出身の私も引きつけられる興味深い内容が多く、生活の上で役立っています。

毎年2月開催の「OBOGと学生との懇談会」について、企業担当者からの問い合わせに対応しているところ。



Q1. 私が担当している実験補助業務は、環境・防災都市共同研究センターで行われる学生の研究に係る実験や、企業の研究開発に係る実験の補助を行う業務です。実験に用いる試験体の組み立てや計測器の設置、試験機の操作などを行います。実験の成功を目指すのはもちろんですが、試験体が数トン規模になることも多々あるため、いかに安全に工程を進められるかを常に考えて業務にあたっています。

Q2. 私は最近、子どもの成長観察にはまっています。私には1歳半になる娘がおり、日々の成長に驚かされています。1年前は1日中仰向けに寝たまま手足をバタつかせる程度だったものが、今では家中を走り回るようになり、言葉も若干出るようになってきました。時間としては私にも子どもにも同じ1年ですが、子どもにとっては長く貴重な1年間であり、吸収力・適応力の高さに驚きを感じます。ただ、人見知りが激しく、親以外の人がいる場所では泣いてばかりいるので、早く人に慣れてほしいと願っています。これから幼稚園や学校に通うようになれば人とのふれ合いも増え、世界が広がって、さらに多くのことを吸収していくことでしょう。いっそう成長していく姿がこれからも楽しみで仕方ありません。

娘の1st Birthday.



Q1. 私が担当している「建築材料力学」では、柱や梁などの建築の構造材料に発生する応力や変形に関して学びます。最近の建築構造は複雑化し、設計をコンピュータで行うことが多くなっていますが、力学の基本事項の修得はとても重要で、設計や解析の諸条件の設定や概算の見積り、結果の判断などで必要となるほか、研究・開発の礎（いしずえ）ともなるので、しっかりと学んでほしいと思います。

Q2. 私は最近、というか数十年にわたって、オートバイにはまっています。乗り継いだバイクは10台以上になりますが、つい先日、14台目を購入してしまいました。「オートバイは不安定」と思われる方も多いでしょうが、不思議なことにスピードを出すほど安定します（ある程度までですが）。テントとシュラフを積んでのキャンプツーリングに、年に4～5回は出かけます。ワインディングロードを走ったときの爽快感は格別で、焚き火をしながらの食事（お酒）もまた最高です。バイクのむき出しのエンジンやフレームに機能美を感じるの、私が構造系の人間だからかもしれません。ただ、最近は長距離のライディングには疲労を感じるようになってきてしまいました。次のバイクは、止まっても足を出さなくてもよいバイク（まだ開発されていませんが）がよいかなと思っています。

14台目のバイクとともに。

建築学科へようこそ！40人の先生を知る2つの質問。



Q1. 私が担当している「建築音環境」では、都市や建築空間の音環境を快適で安全なものにするための方法について学びます。授業では座学だけでなく、音に関する現象を実際の空間に行き体験します。壁や人間が音を吸収して、響きが大きく変化する現象を学生の皆さんが体験すると、「おー」といって感動します。頭でわかるだけでなく、自分の体と耳で実感してもらうことを大切にしています。

Q2. 私は最近、**1960～80年代のロックバンド**にはまっています。学生の頃、バンドを組んで、この年代の曲を演奏していたのですが、ここ1年、好きだったアーティストの来日が集中し、ライブに行き改めにはまったのです。例えばビートルズのメンバーだったポール・マッカートニーです。バラードから激しいロックまで歌声に張りがあり、巨大なライブ会場を熱く盛り上げていました。それからブライアン・アダムスです。最新アルバムは聴いてなかったのですが、ライブで演奏した新曲がものすごくかっこよかったです。両者に共通していたのが、電子音をほとんど使わないシンプルなロックバンドの音でした。これらのライブがきっかけで、昔買ったCDを引っ張り出して聞きまくっています。そして、自分もバンド活動の再開を密かに目論んでいる今日この頃です。

家族でカメラをしたときの写真です。アウトドアが好きで、登山やカメラ、キャンプ、冬はスキーに行きます。



Q1. 私が担当している「欧米の建築史」では、古代から20世紀前半までの西欧建築の流れを、要点を押さえつつ概観していきます。前半では建築史理解の要となる様式概念とその変遷が、後半では今日の建築の姿を導いた近代建築運動の動向が、主題とされます。過去を知るだけでなく、建築の未来を考える羅針盤ともなるよう、意匠のこのみならず、社会と建築との関係性も踏まえた内容となっています。

Q2. 私は最近、宣伝するつもりはありませんが、**Fire TV**にはまっています。加入しているAmazonプライムのオマケとして視聴したのがはじまりでしたが、オン・デマンドで好きな番組を観られる便利さにはまってしまいました。夕食の際など、時間が取れるとき、気がつくとFire TVで好みの海外ドラマを1本ずつ観ています。広告は挟まれないし、45分程度となる尺はだれることもありません。一般のテレビ番組が面白くないこともあります。Amazonといえば、書籍のデータベース代わりや、ほしい品物を検索する際にも活用しています。時折、私へのおすすめというメールがAmazonから届きますが、これがなかなか的を射ており、しばしば感心しきり。こちらの検索履歴に応じ、AI的に判断されるようですが、先日、自分の著書をすすめられた際には苦笑を禁じえませんでした。

建物は動いてくれない。アートも嫌いではない。ならば暇を見つけては現地に赴く。新年早々に訪れた川村記念美術館（の庭園内休憩所テラス）にて。



Q1. 私が担当している「建築気候」は、先人の知恵を活かした快適な住まいづくりのための方策を学びます。暮らしの中の工学として、地形や緑など周囲の環境を工夫することにより、気候のデザインが可能となります。風の流れや日差しの向き、周辺の緑を活かした工夫など、伝統から学ぶ知恵がたくさんあります。エネルギーを大切にしたいパッシブデザイン手法を学びながら、実践できる面白さがあります。

Q2. 私は最近、日本初の**完全自立循環型住宅**にはまっています。昨年の今頃、東京ビッグサイトで出会い、その魅力的なブースに釘づけになり、1年後の今、設計会社から実測調査を依頼され、その成果が3月1～3日まで東京ビッグサイトで開催されたスマートエネルギーウィークで紹介されました。その会社のホームページ (<http://ballenergy.jp/>) には、吉野研が理工学部学術講演会で発表したポスターが掲載されています。三浦半島油壺湾沿岸域に建つ大面積太陽光パネルと住宅用大容量蓄電池設備により、外部からの電力需給を止めて現在730日余。北側大開口から目にするのできるヨットハーバーからの湾特有の穏やかな風。災害時は防災ハウスとしても機能する魅力満載のオフグリッドハウスです。

チベットの象徴ポタラ宮で出あった民族衣装の女性。地球はひとつ。



Q1. 私が担当している「建築基礎実験」は、1年前期の設置なので、入学後すぐに皆さんが受講する科目です。当然のことながら、皆さんの大半は建築初学者ですので、本科目は、例えば建物と振動の関係を模型により体感して考えてもらうなど、難しい専門知識を必要とせずに参加できるよう考慮しています。実験自体は、チームを組んで実施するため、結果がチームワークによるところに面白さがあります。

Q2. 私は最近、**自宅のリフォーム**を計画しています。築35年の集合住宅のため、当初は簡単に済ませる予定でしたが、耐震診断の結果が良好だったため、長期を視野に入れることにしました。妻と話し合っ、せっかくなので建築家に頼む運びとなり、トントン拍子で私にとって魅力あるリフォーム案が進むはずでした。ところが、家に無頓着だった妻が、内装を大きく変えることができることを知ると、猛烈に自分で建築の本を読むようになり、建築物を見に行くようになり、建材のサンプルを取り寄せるようになり……。その結果、動線が悪い、寸法が違う、壁の仕上げの別案を出せ、天井は私の趣向ではないと施主が2人になったため、計画に折り合いがつかず、変更を重ねて、半年経っても先が見えません。これが掲載される頃もまだ完成していないでしょう。

卒研生と小松菜マラソンに参加したときの様子。参加賞として小松菜うどんがもらえるアットホームなイベント。



Q1. 私が担当している「ランドスケープデザイン」(短大、学部共通)は、街や建築の周囲にある空間のデザインの進め方や手法について、私が関わった事例を使い、学修します。建築学科で建築を学び、そろそろ外側のことも気になる頃、学部では3年後期、短大では2年後期に設置してあります。建築デザインの可能性を広げる視界が育つと思っています。

Q2. 私は最近、マツコ・デラックスがメインパーソナリティーのテレビしか観ていない！ 趣味は歴代いろいろ手を出してきたので、たくさん挙げるのですが、ずっと続けているのがテレビとラジオを観たり聞いたりすること。完全ながら族で、大学の仕事などもラジオをつけたまま作業、テレビを観ながら食事が普通です。最近は大学と研究で忙しく、テレビをゆっくり観る時間がないので、お気に入りのマツコさんはすべて録画。自己主張はするけれど弱者には優しいマツコさん、おたくな人たちとの会話を私にはツボです。タモリさんもすごいけど、地理については、マツコさんが総武線やら世田谷の話を語る切り口が面白い。特に千葉の話は、船橋キャンパスに通うようになって私も詳しくなったから、マニアックな話もわかり、ますます面白がって観ています。

私のほうがずっと前から緑がテーマカラーなんだよ！



Q1. 私が担当している「情報処理」は、プログラミングの基礎を学ぶ授業です。世界各国の小学校では、プログラミングの授業が導入されています。その理由は、IT社会を支える人材を育成することはもちろん、論理的な思考力と問題解決力が養われるからです。「私はデザイン系だから」と情報系の授業を敬遠している学生さん、論理的思考力を磨いて、建築プログラムを構築するための思考回路を身につけませんか。

Q2. 私は最近、ロードバイクにはまっています。きっかけは車つながりの友人からの「眠っているロードバイクいる？」の一言から。値が張るものですが、眠っているのはもったいないと図々しくもいただきました。そして教本を買って、YouTubeを見ながらメンテナンスをしていくうちにドンドン愛着が湧いてきて、ちょっと走れるようになると、ヘルメットやシューズ、ライトや携行工具などをひとしきり買いそろえる始末。秋に下り坂で落車して激しく負傷するも、冬も乗ろうと防寒着も買ってしまいました。まだ1年経ちませんが、80kmは走れるようになったので、今年は1日で120km走れるようになること、季候がよくなったら輪行(電車などの公共交通に自転車を乗せて運ぶこと)をして、景色のよいところへいっぱい走りに行くことが目標です。

とある休日朝、江戸川サイクリングロード脇にある寅さん博物館の前で。



Q1. 私が担当している「建築基礎実験(建築基礎実験I)」では、複数の実験を通じて建物の安全性について学修してもらいます。入学したての1年生を対象としているため、専門知識のほとんどない学生でも、体感しながら学べるように工夫しています。また、チームごとに各自で考えて模型を製作してもらうなど、学生同士の交流にも一役買っているようです。

Q2. 私は最近、暇を見つけてはキャンピングカーの情報収集をしています。キャンピングカーというと、周りから「そんなにアウトドア好きだったか？」と質問されますが、特にキャンプが好きなのでもないし、虫も苦手なので、どちらかといえばインドア派です。ただ、変わった乗り物は好きで、いつでも気軽に出かけられること、出かけた先でインドアでゆっくりできることなどがとても心惹かれます。残念ながら気軽に買えるものではないのですが、昨年の夏にはキャンピングカーをレンタルして、キャンプ場に出かけてきました。もちろん、エアコンの効いた車内で、電子レンジを使って料理し、テレビを観て過ごしました。最近のキャンピングカーは設備が充実しています。いつかキャンピングカー仕様にしたウニモグを手に入れるのが夢です。

海外派遣研究員として出かけたロンドンの地下鉄駅にて。3週間かけてさまざまな建築を見に行ってきました。



Q1. 私が担当しているデザイン系科目の教育補助は、設計製図を中心として授業や学内事務が円滑に行われるように、教員と学生のサポートを行っています。研究としてコンペ活動を軸に、実体験の中で調査や分析、プレゼンテーションの成功や失敗の経験から、設計課題やゼミナール活動などのものづくり(制作工程)を通して、学生と対話をしています。縁の下の力持ちになればと務めています。

Q2. 私は最近、研究の一環となるまちづくりコンペ作品の応募を多く行っていました。昨年も前橋・南魚沼・本庄のまちを訪れました。観光で訪れる風景とは異なり、気候風土やまちの個性、日常の暮らしの様子など、新たな発見が見える点と、暑い日照りの中、足を棒にして歩き巡ったまちに対する愛着が生まれることを面白がっています。中でも、散歩中に出会う、昔ながらの定食屋や銘菓店でお出迎えの温かいコミュニケーションはよい思い出です。また、帰り際に選ぶ「土産セレクト」も隠れた逸品に出会えたときは至福であり、他のモノでは堪能できず、定期的にお取り寄せサービスを活用しています。最後に、私の郷土(淡路島)の特産である玉葱や海の幸など、当たり前のように享受されていた恵みが、今改めて、地方文化の大切さだと感じています。

教員のサポートや学生のフォローアップを手助けする生活が日常です。

修士論文
環境系

研究はあきらめずに根気強く、人を大切にすること

齋藤賞

音楽と十二平均律に着目した演奏空間における音場の解析手法

松尾明穂さん (M2・羽入研究室)

現 在のホールの分析・測定では、インパルス応答などの信号音を用い、1オクターブや1/3オクターブで分析しているが、今回、音楽の音階に基づいた1/12オクターブごとの残響時間を算出したところ、従来の分析では見られなかったばらつきを見出した。このことから、音階・和音などの音楽的視点で、音場を分析・評価できる可能性を示した。さらに、信号音を用いず、演奏音を使った解析を試みた。複数の音場で解析し、統計的に比較検討したところ、音楽でも十分に音響特性を表していることを示した。これにより、

実際に演奏されている音場の測定評価が可能になり、今まで困難であったオーケストラと客席がいる状態での音響測定・評価の新しい道を開いた。

「測定したデータを解析するために、他の論文や書籍、先生とのディスカッション内容を理解するのに苦労しました。得られた結果が人に伝わるように、わかりやすいストーリーを考えることも大変でした。社会人になり自立していくためには、苦手な『人に伝える』ことを改善していかなければいけないと痛感したことは、大きな収穫でもあります」

修士論文
構造系

まとめあげたときの達成感こそ、他にはない喜び

齋藤賞

鉄筋とコンクリート棒形振動機の接触を考慮した締固めにおける再振動に関する研究

伊藤 淳くん (M2・材料施工研究室)

梁 や壁など、比較的部材が小さく過密配筋となっている箇所では、コンクリート棒形振動機による締固めの際、施工上、鉄筋とコンクリート棒形振動機の接触が避けにくい状況がある。そのことがコンクリートの品質に影響を及ぼすとされながらも研究されてこなかったことから、このテーマに取り組むこととした。締固めにおける再振動が鉄筋とコンクリートの付着性状に及ぼす影響を明らかにするために、コンクリート棒形振動機による加振時間や再振動のときの鉄筋との接触時間、鉄筋径を変化させ、圧縮性状と付着性

状の両面から実験を行い、適切な再振動の施工要領を考察した。

「実験の計画から試験体の作成、コンクリートの打込みに至るまで大変でした。さらに実験結果から、論文の結論を仕上げるころはさらに大変です。何度もチェックをすることの重要性を知りました。『これでよい』との思い込みにより、論文の展開や内容などにあった誤りや強引さに気づけないことも多々ありました。何度もチェックしていただいた環境には感謝の言葉しかありません」

修士論文
計画系

問題意識に出会って、それを形にすることは非常に楽しい

吉田鉄郎賞

ソーシャルメディア上に表れる美術館のイメージに関する研究

- Instagramの投稿画像を通して -

黒田陽二郎くん (M2・佐藤慎也研究室)

建 築学科に入ると、建築を見て「カッコいいな」と言う人がいることに驚いた黒田くんは、建築家の言説や歴史を勉強してきた一方で、多くの人々が建築をどう思っているかということがどんどん気になっていった。今回の研究は、大量に投稿された美術館のハッシュタグがつけられたInstagramの画像を分析するもの。100館の美術館を選び、それに関する36万を超える投稿画像を解析するプログラムを作成し、市民が意識的／無意識に選び出した美術館の要素を抽出した。市民が美術館に対して、どのようなイメージを持っ

ているのか。あるイメージに偏る美術館はどのようなものか。ビッグデータをもとにして、現代における美術館のあり方を考える研究とした。

「ビッグデータを用いて、どのような切り口で研究を進めるかが大変でした。論文は自分自身と向き合うことだと思います。その結果、自分の問題意識に出会って、それを形にすることは非常に楽しいことでもありました。地道な作業でもあり、迷走することたくさんあると思います。悩むことはよいと思いますが、やってみる精神で突き進むことも大事だと思います」





修士設計

楽しく自分のやりたいことを貫いて！気持ちで負けるな！

吉田鉄郎賞

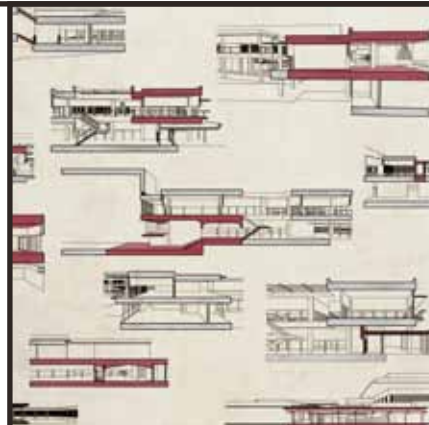
日本の伝統的な建築空間の分節・接続方法の分析による設計手法の提案

- 与野本町小学校複合施設を事例として -

敦賀谷 俊くん（M2・佐藤光彦研究室）

敦 賀谷くんの修士設計は、元々好きだった伝統建築が持つ空間を対象とし、閉鎖的な公共建築を開くことをテーマとした。「開く」は、卒業設計のテーマでもあった。日本の伝統建築は複数の建築や機能が統合したものが多く、それらを統合するために廊、建具、庇、馬道などの方法が用いられている。それらによる空間の分節接続方法を明らかにし、その体系化を行った。さらにそれを現代の複合化した学校施設の設計に用いることで、新たな複数機能の統合方法や関係性をつくり出す可能性を示した。

「伝統建築の分析方法を確立することや、分析から導き出した結果をどのように現代建築の設計手法に昇華させていくのかを考えることが最も大変でした。修士設計の楽しさは好きなテーマを1年間没頭して行えることだと思います。自分の興味のあることを研究し、最後に図面と模型となる喜びは、卒業設計でも味わえない感覚でした。後輩たちには、日常的なエスキスや中間発表では厳しい指導があると思いますが、修士設計そのものを楽しんでもらいたいです。やりきった先には、とつもない達成感があります」

卒業論文
環境系

研究は研究室の人たちとともに楽しんで

桜建賞

戸建住宅の实用的環境振動予測法に関する基礎的検討

坪井恒太郎くん（4年・建築音響研究室）

鉄 道・道路交通・工事・工場などが原因で人間に影響を及ぼす環境振動を事前に予測する「環境振動予測法」というものがある。既往研究では、数値シミュレーションソフトを用い、高精度な予測ができる。しかし、計算量が膨大で、時間がかかってしまうデメリットがあった。坪井くんは、戸建住宅において、より簡単に誰でも扱える実用的な環境振動予測法を提案するために、振動加速度レベルの分析を周波数帯域ごとに行った。

「研究室としても今年から取り組みはじめたテーマだったので、実験をどのように行うべきかを考え

ることに苦労しました。実験を行うための場所・物件を探すことも非常に大変でした。何度も失敗しましたが、くじけずに挑戦していきました。根気強く研究をすることが大事だと思います。先生方や先輩方のアドバイスには大変助けられました。まさに研究は、ひとりで進められるものではないと痛感しました。そのことも含めて、実験・研究は、とても楽しく進めることができました。卒業研究は非常に大変ですが、同時に達成感があります」

卒業論文
構造系

アウトプットする場を多く経験する1年に

桜建賞

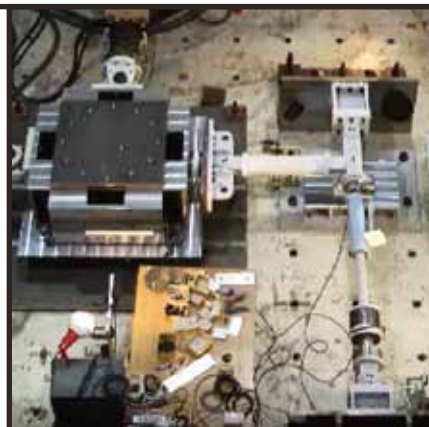
大振幅地震動に対応した免震フェイルセーフ機構の開発

青柳 智くん・石澤 遥さん・枝村 泰くん・長谷川優花さん（4年・免・制震構造研究室）

免 震構造は、兵庫県南部地震を契機に地震への有効性から多くの建物に適用されてきたが、巨大地震の際には、免震建物の擁壁衝突や積層ゴムの損傷などの被害が懸念される。そこで、青柳くんたちのチームは、近い将来に発生が危ぶまれる巨大地震時における免震建物の免震層変形の抑制について研究した。免震層の変形を抑制するためには、ダンパーの増量や減衰力の大きいダンパーの設置が挙げられるが、それでは従来の性能でも対応可能な中小地震時に上部構造への応答を助長する悪影響が発生する。そこで、中小

地震時には減衰力をあまり発揮せず、大変形を及ぼす巨大地震ほど減衰力を発揮するフェイルセーフ機構を開発した。

「4人で研究を行ったので、自ずと各自が異なる作業を行う場面が多々あり、それぞれが出力した解析結果を判断する難しさがありました。その一方で、研究を進める中で、多くの情報や知識をインプットし、それらを参考に発展させた研究成果をゼミなどの発表の場でアウトプットしていきながら、新たな価値観や創造性が得られることに楽しみがありました」（青柳）



卒業論文
構造系

研究による新しい発見によって、自分自身が成長していく

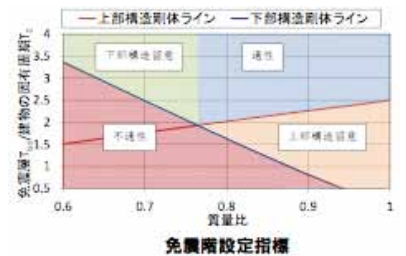
桜建賞

中間階免震建物の簡易設計方法に関する基礎的研究

黒瀬梨加さん（4年・免・制震構造研究室）

先 輩たちの研究テーマに興味を持ったことがきっかけとなり、黒瀬さんの研究では、中間階免震建物の設計に着目した。中間階免震建物の設計では、上部構造と下部構造の影響を考慮した免震階や免震層周期を設定することが重要である。免震層に上部構造と下部構造の影響が入らず、免震層のみが変位を負担する範囲に免震階を設置することが理想的だが、さまざまな建物モデルに対してそれを見つけることは時間と労力を大いに浪費する。そこで、建物の質量や周期から、そのモデルに対して最適な免震階や免震層周期を決定できる指標を作成

し、中間階免震建物の設計をより簡易化した。「研究をはじめた数ヶ月間は膨大なデータの解析・整理に追われ、なかなか出口が見えませんでした。先生や先輩方の力を借りながら徐々に頭が整理され、データの見方や活用方法を理解できるようになりました。結果を導き出せたときの嬉しさはとて大きいものでした。大学4年間で最も充実感を感じています。卒業後、社会に出て仕事をする際に、授業で学んだことが役に立つのかという漠然とした不安がありました。この卒業研究により、社会に出て仕事をする上での大きな自信となりました」

卒業論文
計画系

方法を考えるばかりではなく、はじめてみよう

桜建賞

サービス付き高齢者向け住宅における住民間の交流に関する研究

仲辻真理さん（4年・山中研究室）

地 域包括ケアシステムの中で高齢者の住まいとして位置づけられる「サ高住」は、急激に増加している一方、建築的規定が少なく、さまざまな形式が混在している。仲辻さんは、その計画の実態の把握と、共用空間の配置と住民間の交流との関係について研究を行った。具体的には対象としたサ高住の図面作成と分析、現地調査を行った。結果、住民間の交流の多い住宅では、食堂が1カ所に配置されているとともに、複数のコミュニティスペースを持つ傾向が見られた。また、運営面では外部と関わりを持つサ高住ほど、住民間の交流が多い

ことがわかった。研究を受けて、今後のサ高住に向けた提案も行っている。「ひとつのテーマに集中して1年間取り組んだことで、テーマに関する知識が増え、たくさんの新しい発見がありました。施設ごとの現地調査や、運営者へのインタビューによって、各施設の違いを直接感じることができたことは、とても貴重な経験になりました。最初は自分の研究が何につながるのか不安でしたが、進めていくうちにその目的や自分の興味が明確になり、研究がより面白くなりました」

卒業論文
計画系

興味を持ったことをとことんやることは苦しく楽しい

桜建賞

東京都に現存する文化財指定古民家の維持管理実態について

- 修理の状況と防災施設、運営状況を中心として -

庭田 茂慧くん（4年・重枝研究室）

庭 田くんは、建築に興味を持ったきっかけとなった古民家を卒業研究のテーマとした。古民家は、活用が求められているが、火災や地震などの災害に弱く、さらに経年劣化により、茅葺屋根や建具など修理を必要とする箇所が増加し、維持には多額の費用がかかる。そこで、管理団体へ「修理経歴」「防災設備の有無・内訳」「運営状況」の聞き取り調査を行い、保存・維持管理の課題の洗い出しを行った。

「研究が進み、古民家について新しい発見が見えてくるときは嬉しかったです。自分の卒業論文は、

聞き取り調査やボランティアの人と接する機会が多かったのですが、そこで少しでも古民家について話せるようになっていくと、その面白味は一気に増えました。同時に、いろんな人と自分のテーマについても語り合えるようになっていく。そんなところにも研究の面白さがあるのだと気づかれました。地元青森県庁に就職してからは、保存・維持していく側に立つこともあるだろうと思います。そのときには、今回の研究を活かせればと思います」



卒業設計

想像を超えた奇妙な世界をつくるのが、設計の楽しさ

桜建賞

城中村を、つなぐ —都市政治へのアプローチ—

成 潜魏くん（4年・佐藤光彦研究室）

かつて成くんが幼少期を過ごし、その人情の豊かさや隣里の絆が印象深かった中国の「城中村」のようなエリアは、今では住環境が悪化し、コミュニティが衰退してしまっている。そこで今回、故郷に対する関心と建築や都市に関する思考を重ね、中国の城中村における住空間と住環境について研究し、さらにその新しい更新・構築の方法を提案した。現在行われているように、ただ貧困を排除するのではなく、現在の城中村を骨背として機能させながら、全体的なサービスをコネク特させていくことで城中村の発展を促進する枠組みをつくっている。それに

よる住民たちの生活能力と建築スキルの向上が、経済的チャンスや長期的な社会的交流を促し、絶えまなく増加するグローバル都市におけるスラム危機の解決にもつながるとした。

「提出が終わっても、卒業設計に終わりはありません。絶対に及ばない点があるからです。ひとつの社会問題を解決するには、いろんな問題が関わります。今回提案した枠組み以外にも、構法や防災、産官学のパートナーシップなど、自分が納得できる卒業設計の完成までは、まだまだ研究が必要だと思っています」



卒業論文

自分なりの答えが見つかるまで、諦めずに

桜建賞

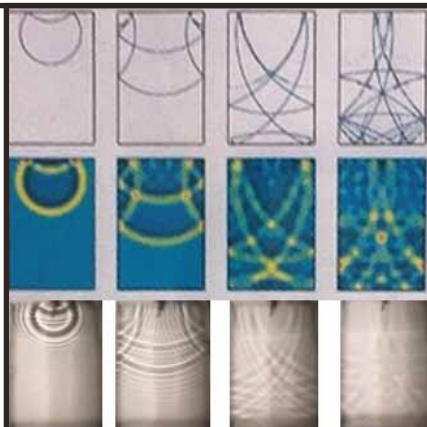
リップルタンク法を用いた室内音伝搬の可視化手法の検討

大村慎子さん（短大2年・羽入研究室）

リップルタンク法とは、水槽に張った水を振動させて生じた波を可視化する古くから用いられている手法だが、音楽ホールなど室内の音の伝搬を可視化する際の最適条件については不明点が多かった。そこで本研究では、最適な水深、可視化対象の室の壁面素材、照明の種類と照射方法、波の投影・撮影方法などについて装置を自作して、詳細に検討を重ねた。結果、これらに関する最適条件を明らかにし、ホール内を伝搬する音をスローモーション動画で明確に撮影することに成功した。また、コンピュータシミュレーションによる可視化結果と

比較し、手法を検証した。さらに自作装置を用いることで、ホール形状の違いや壁面の拡散体（細かい凹凸）の違いなどによる音波伝搬の違いを可視化でき、ホール音響設計の初期段階に有効な手法であることを示した。

「水の波紋はすぐに消えてしまうので、どう工夫すれば反射を確実に見ることができるか、毎日悩みました。結果が出なくても諦めずに、毎日取り組むことが研究では大切だと思いました。卒業研究には唯一の答えはありません。研究においては教授だけが正解を知りません。そこも面白いところです」



卒業設計

大学で一番大変なことだけど、達成感や喜びは特別なもの

桜建賞

ワンダフル —犬と暮らす8家族の住まい—

横山実花さん（短大2年・矢代研究室）

犬は古くから人間とともに暮らすパートナーとして親しまれてきた。現在でもペットとして親しまれているが、犬の飼育が禁止されている集合住宅やマンションは多くある。犬を飼い、犬を通じていろんな人に出会ってきた横山さんは、犬とともに楽しく快適に暮らせる集合住宅があってもいいと考え、犬と犬好きな人が暮らす集合住宅「ワンダフル」を提案した。

「模型づくりが一番大変でした。設計の規模が小さかったので、1/30の模型をつくりながら検討していったのですが、材料の一つひとつが大きいので、

とても大変でした。1年を通して、改めて周りの人たちの大切さに気づかされました。知識の浅い私に—から指導してくれた先生や、周りで頑張っている友人たちの存在があったからこそ、最後までやりきることができました。これまで、建築のさまざまな分野を学ぶ一方、建物が建つという実感を持つことが難しい部分がありました。しかし、卒業設計では、先生に指導していただきながら、実際に建物がどう建ち上がっていくのかが少しずつわかっていきました。それが一番楽しかったです」



建築学科による就職支援

「OBOGと学生との懇談会」開催

text=山中新太郎 准教授

2017年2月14日(火)・15日(水)に1号館CSTホールで開催しました。開催に先立って行われた当日ガイダンスでは、2月14日には大成建設の廣作利香さんから、2月15日には大林組の浦進吾さんから激励の言葉をいただきました。今年は合計80社の企業・団体が参加し、14日には224名、15日には207名の学生が参加しました。前年度は、建築学科と建築学専攻のすべての就職者の約60%が、結果として本懇談会に参加した企業・団体に就職しています。これを見ると、この懇親会での「出会い」がいかに重要かわかると思います。90年以上の歴史を誇る日大理工建築であるからこそ、大勢のOBOGの協力が得られ、就職活動への強力なバックアップができるのです。

参加した学生は、気になる企業のブースを訪ねながら、OBOGと積極的にコミュニケーションを取っていました。OBOGの中には、数年前まで学生だった方々も多く含まれているため、学生に近い立場で親身に相談に乗ってもらうことができたようです。この成果を、3月から本格的にはじまる就職活動に活かしてもらいたいと思います。

参加企業・団体：青木あすなろ建設、浅沼組、旭化成ホームズ、穴吹工務店、安藤・間、一条工務店、大林組、大本組、岡村製作所、奥村組、鹿島建設、北野建設、桐井製作所、熊谷組、京王電鉄、構造計画研究所、構造ソフト、鴻池組、国土技術研究センター、五洋建設、佐藤工業、JFEエンジニアリング、清水建設、芝工業、ジョンソンコントロールズ、新日鉄興和不動産、新日本空調、三菱冷熱工業、スターツグループ、住友林業、住友林業ホームテック、西武建設、西武鉄道、積水ハウス、錢高組、船場、大京グループ、大末建設、大成建設、大成有楽不動産、ダイダ、大和ハウス工業、高砂熱学工業、高松建設、タカラスタンダード、竹中工務店、千葉市、鉄建建設、東亜建設工業、東海旅客鉄道、東急建設、東急コミュニティー、東急設計コンサルタント、東京ガス、東京電力ホールディングス、東洋熱工業、戸田建設、栃木県、飛島建設、ナカノフドー建設、西松建設、日本ERI、日本住宅、日本総合住生活、乃村工務社、野村不動産パートナーズ、長谷工コーポレーション、パナホーム、東日本旅客鉄道、フジタ、ボラス、前田建設工業、松井建設、ミサワホーム、三井デザインテック、三井住友建設、三井ホーム、三菱地所ホーム、三菱電機、類似設計 (以上80社・団体)



OBOG懇談会当日のガイダンス。廣作利香さんからの挨拶。



CSTホールにブースが設けられ、各企業との面談が行われた。

OBOGと学生との懇談会の感想

この懇談会はさまざまな企業や仕事内容について知ることができる貴重な場だと思います。自分が志望する業界が決まっていたとしても、他業界の話聞くことで刺激を受け、視野が広がり、新鮮な気持ちを得ました。来てくださった企業の方々がOBOGであったこともあり、質問をしやすく、企業ごとの色も知ることができました。また、多くの企業の人と話せる機会なので、就職活動をしていく上でいい経験にもなったと思います。(4年 山田洋平)

今回の懇談会では、午前の部で建築業界の先頭を走る先輩方から、貴重なお話や大学の先輩としての励ましのお言葉をいただき、これから本格的にはじまる就職活動に対するはっきりとした意気込みが生まれました。午後の部では、2日間で80社もの企業から先輩方がお越しになり、ブースで各社の説明と質問を通して、各企業の持つ強みや社員のカラーなどが伝わってきました。特に歳の近い先輩方

からは、ここでしか聞けないような質問やお話をうかがうことができ、非常に有意義な時間となりました。(4年 町田大歩)

3月1日の就活広報活動解禁に向けて、大まかにしか考えてこなかった就活について本格的に考えさせられる2日間になりました。学生が少人数なので、OBOGの方と直接かつ濃い密度で話したり、自分の疑問を数多く質問することができたと思います。OBOGの方々が、自分たちと近い目線で話していただけたので、何気ないようなことも聞くことができ、企業のことをより知ることができました。また、建築関係のみのため、建築学科の学生に人気のある企業を知ることができ、今後の企業選びの参考になりました。(4年 森下諒)

#34 2016年11月30日 (水)

Guest

土谷貞雄さん (コンサルタント・建築家)

text= 井澤友貴 (4年)

変化を生み出す人は常にポジティブで、それが人間的な魅力となつて、周りの人を惹きつけている。土谷さんは、無印良品の窓際部署に追いやられたときもポジティブに考えていた。縛られず、自由にやってやろうと。テレビの見方や位置、誰と観るかなど、マニアックな生活に関する細かいアンケートを取ったことによつて、エンドユーザとコミュニケーションを取りつつ、そこからあぶり出される「市場と調査のズレ」に気づいたという。多くの人が、調査結果を商品開発にダイレクトにつなげ過ぎている中、土谷さん

は、マイノリティこそが暮らし方の可能性を広げると考えた。「建築以外の業種でも、自分のやっていることは、すべてにおいて『そのモノの背景を見ること』が共通している」と話された。何かを生み出す人は、他業種と関わるのが大事で、商品発想の仕方に何かしらの影響を与え、可能性を広げている。住宅メーカーの未来を考える人は、それ以外の企業と一緒に考えることが、住文化のボトムアップにつながる。それは、土谷さんの考え方そのもので、「建築の仕事でも、それ以外の仕事でも、来る仕事、来る付き合いにポジティブに向かつて行った結果、後から思えば、いい方向に動いていた」とおっしゃっていた。実際、土谷さんは飛行機移動も楽しんでいる。「目の前のことに一所懸命になりなさい」「来る仕事、来る付き合いにポジティブに向かいなさい」といった言葉が心に残った。 ■



佐藤光彦教授 (左) とゲストの土谷貞雄さん (右)。

#35 2016年12月21日 (水)

Guest

福井信行さん (ルーヴィス代表)

text= 中村歩香 (M1 古澤・二瓶研)

人口減少などの背景から空き家が増加し続けているという昨今、それらを所有するオーナーに対し、空き家を借り上げ、無償で改修したあと、改修費用と同等の費用を6、7年間で賃料から回収していく「カリアゲ」プロジェクトについてお話をいただいた。空き家が増加する背景には、人口減少はもちろん、改修したあとに安定した入居率を維持できるかというオーナーの不安や、銀行からの融資に関する問題などで躊躇するオーナーがいることが紹介された。この問題は、人口減少が進むにつれ賃貸物件の需要も減少し、築年数が古い物件が空き家として取り残される状況に顕著に現れてくると考えられる。それに対し、「カリアゲ」プロジェク

トでは、空き家の改修費用を全額負担するとともに、借り上げ期間中には、毎月オーナーに貸し出された元空き家の賃料の1割が支払われることが保証される。さらに、改修費用で銀行からの融資を受けても、返済期間の5年間に対し、借り上げ期間の6、7年間は定期的に収入を得ることができるシステムだ。まさに現状の空き家問題を一気に解決する新たなシステムが構築され、これからの空き家に対するアプローチの幅が広がったと考えられる。

福井さんの最新のプロジェクトである三浦市宮川町の「みやがわベーグル」は、過疎化が進む地域において、空き家の用途を店舗に用途変更することで話題性を集めた。地域の特徴を捉えた用途を考えることで、その地域の活性化に寄与する可能性も考えられる。現に「みやがわベーグル」では、オープン時、町の人口のほぼ半数の人が訪れたという。福井さんの「カリアゲ」プロジェクトは、空き家に底知れぬ可能性を与える素晴らしい事業だと実感した。 ■



司会の古澤大輔助教 (左) とゲストの福井信行さん (右)。

2017 年度、新任紹介

赤澤加奈子 助教

今年度より建築学科で助教を務める赤澤加奈子と申します。

私は、温泉地・別荘地・観光地を主な事例として、歴史的視点から都市・都市計画・不動産開発に関する研究をしています。博士論文では、日本における分譲別荘地開発の展開に関する研究をテーマとし、静岡県熱海市および伊東市における別荘地形成の動向について検討を重ねました。

歴史的視点から物事をとらえること、そもそもの成り立ちを知り、改めて過去を振り返ることは、忘れていた大切な事柄に気づかせてくれます。地域で受け継がれてきた文化や自然環境の意味を再認識することができます。それらは、今後における地域のあるべき姿や再出発を図る際に新たな展開を見出すヒントを提示してくれます。そのことを、学生の皆さんに少しでも伝えることができたら、と思います。



あかざわ・かなこ：1976年東京都生まれ。2011年日本大学大学院理工学研究科不動産科学専攻博士前期課程修了。2016年同博士後期課程修了(博士(工学))。明海大学総合教育センター非常勤講師、國學院大學研究開発推進機構研究開発推進センター一研究員、日本大学理工学部理工学研究科研究員を経て現職。



左：『共存学2：災害後の人と文化 ゆらぐ世界』（2014年弘文堂）「第3部 地域の災害と開発のゆくえ」執筆担当。
右：平成28年度熱海市立図書館講座「熱海の歴史をひもとく」講師。

道明裕毅 助手

この春より、建築学科の助手を務めさせていただくことになりました道明裕毅です。私は、主に建築基礎工学を専門にしております。博士前期課程では、地盤基礎研究室で液状化現象に関する研究を行い、主に「コンピュータ解析」と実際の砂を用いた「液状化実験」を同時に行うことができるシステムの開発を行っていました。大学院修了後は、研究を通じてプログラミングの魅力に惹かれ、また本学で学んだ構造計算の知識を活かせるよう、パソコン用構造計算ソフトの開発を仕事としていました。

世界中に全く同じ地盤というのはふたと存在せず、建物を支える建築基礎工学は、まだまだ研究途上の分野といえます。液状化現象という地面の下のことから、上部構造の構造計算まで、自分の経験した知識を学生の皆さんの役に立てられれば光栄です。本学から社会に羽ばたく皆さんの力になれるよう努力してまいりますので、気軽に声をかけてください。どうぞよろしく願いいたします。



どうみょう・ゆうき：1989年東京都生まれ。2013年日本大学理工学部建築学科卒業。2015年同大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了。2015～17年(株)構造ソフト。



左：研究で用いた液状化試験機。 右上：地域の方を対象に行った液状化に関する講習会の風景。小さな子どもに液状化実験を実演している場面。 右下：液状化被害実地調査をした際の写真。液状化によるマンホールの浮き上がり。

News & Topics

○人事（建築学科）

・4月1日付の人事で、宇於崎勝也准教授、橋本修准教授、秦一平准教授、宮里直也准教授が教授に昇格した。渡辺富雄教授が、新たに特任教授として、神田順特任教授、榎田吉弘特任教授が、新たに客員教授として建築学科所属となり、引き続き学生の教育・研究に携わる。

・4月1日付の人事で、新しく建築学科のメンバーになったのは、赤澤加奈子助教、道明裕毅助手である。

・安達俊夫特任教授、池田耕一特任教授、金島正治特任教授が3月31日をもって退職した。

・建築学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。

〈新任〉：雨宮知彦（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）、金島正治（環境システム解析、他）、唐沢智之（建築生産実験）、木島千嘉（建築設計Ⅲ、Ⅳ）、倉本剛（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）、高橋計之（建築設備Ⅱ、Ⅲ）、都留理子（建築設計Ⅰ、Ⅱ）、飛田幸作（建築設計Ⅰ、Ⅵ）、藤賀雅人（都市防災）、正田浩三（不動産維持管理）

〈退任〉：井手孝太郎（建築設計Ⅴ、Ⅵ）、伊藤暁（建築設計Ⅰ、Ⅱ）、大野博史（建

築設計Ⅰ、Ⅱ）、齊藤丈士（建築生産実験）、中村八郎（都市防災）、野島秀仁（建築設計Ⅵ、Ⅶ）、古橋秀夫（不動産維持管理）、吉田明弘（建築設計Ⅲ、Ⅳ）

・建築学専攻の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。

〈新任〉：安達俊夫（建築基礎構造特論Ⅰ）、池田耕一（建築環境工学特論Ⅱ）、西田司（建築デザインⅠ）

〈退任〉：末光弘和（建築デザインⅠ）、半貴敏夫（塑性解析特論）

○人事（短期大学部建築・生活デザイン学科）

・高安重一助教が3月31日をもって退職した。

・短大建築・生活デザイン学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。

〈新任〉：北川卓（建築・生活デザインの基礎、建築デザインスタジオⅠ）、北島俊嗣（建築デザインスタジオⅡ、建築デザインスタジオⅢ）、高安重一（建築・生活デザインの基礎、建築デザインスタジオⅠ）

〈退任〉：下村幸男（建築材料力学Ⅰ、Ⅱ）

第1回学生住宅プランニングコンテストにおいて建築学科4年の池田貴大君と矢坂研二君が審査員特別賞を受賞

「第1回学生住宅プランニングコンテスト」（主催：コンチネンタルホームグループ）において、建築学科4年（当時）の池田貴大君（古澤・二瓶研）と矢坂研二君（佐藤光彦研）の作品「日常を紡ぐパレット 連続する小さなふるまいと家族を包む大きなイエ」が「審査員特別賞」を受賞した。テーマは「家族の中心、“子ども”」。優秀賞2次に次ぐ佳作1点に選ばれた。

第10回JACS全日本学生建築コンソーシアム「住宅設計コンペ2016」において建築学科4年の市ノ川貴之君、伊東亮祐君、稲庭香歩さんが佳作を受賞

「第10回JACS全日本学生建築コンソーシアム『住宅設計コンペ2016』」（主催：全日本学生建築コンソーシアム）において、建築学科4年（当時）の市ノ川貴之君（田所研）、伊東亮祐君（佐藤光彦研）、稲庭香歩さん（同左）の作品「壁が家」が「佳作」を受賞した。テーマは「思いやりのある戸建て住宅」で、1次審査は図面によって、2次審査は模型によって審査が行われ、最優秀賞1点、優秀賞2点、群設計特別賞1点、特別実現採用賞1次に次ぐ佳作26点に選ばれた。

第3回関東学生景観デザインコンペティションにおいて建築学科4年の飯嶋貴太君と伊東亮祐君が佳作を受賞

「第3回関東学生景観デザインコンペティション」（主催：関東学生景観デザインコンペティション実行委員会）において、建築学科4年（当時）の飯嶋貴太君（古澤・二瓶研）と伊東亮祐君（佐藤光彦研）の作品「漂う時景の雲」が「佳作」を受賞した。埼玉県和光市の午玉山遺跡を対象に「時をつなげる景観デザイン」をテーマに実施された。ファイナリスト6グループに選ばれ、公開審査を経て、最優秀賞、優秀賞、景観デザイン賞各1次に次ぐ佳作3点に選ばれた。

Drawing of the Year 2016において建築学専攻2年の菊池毅君がSpecial mention（特別賞）を受賞

「Drawing of the Year 2016」（主催：Aarhus School of Architecture, Denmark）において、建築学専攻2年の菊池毅君（今村研）の作品「エレメントの記述」が「Special mention（特別賞）」を受賞した。テーマは「Habitat」。64か国、応募総数365点の中から、1st prize 1点、2nd prize 1点、3rd prize 1次に次ぐSpecial mentions 8点に選ばれた。

第12回「新・木造の家」設計コンペにおいて建築学専攻2年の石川大二郎君、尾崎健君が優秀賞を受賞

「第12回「新・木造の家」設計コンペ」（主催：特定非営利活動法人森林をつくろう）において、建築学専攻2年の石川大二郎君（山中研）、尾崎健君（佐藤光彦研）の作品「蔵と暮らす」が「優秀賞」を受賞した。最優秀賞1点、林野庁長官賞1次に次ぐ優秀賞2点に選ばれた。

第3回宇宙建築賞において建築学専攻2年の河部卓也君が入賞

「第3回宇宙建築賞」（主催：宇宙建築コンテスト実行委員会・協賛：旭化成ホームズ株式会社）

において、建築学専攻2年の河部卓也君（今村研）と本学卒業生の峯村颯君と西崎昇平君の作品「天上の竹」が「入賞」に選出された。テーマは「Uzumarch」で、架空のUZUMEプロジェクトによって発見された月面洞窟を利用して、居住施設を設計するもの。応募総数21点の中から、最優秀賞1次に次ぐ入賞5点に選ばれた。

キルコス国際建築設計コンペティション2016において建築学専攻2年などの作品が多数受賞

「キルコス国際建築設計コンペティション2016」（主催：キルコス国際建築設計コンペティション実行委員会）において、下記学生がそれぞれの賞を受賞した。テーマは「鉛直/垂直」、応募総数は301点で、20名の審査員がそれぞれ金賞1点、銀賞1点、銅賞1点、佳作数点を選出し、ひとつの作品が複数の賞を受賞する場合もある。建築学専攻2年の尾崎健君（佐藤光彦研）の作品「垂直に根を張る建築」が「小川次郎賞金賞」。建築学専攻2年の添田魁人君（古澤・二瓶研）、建築学科研究生（当時）の吉村凌君（田所研）、建築学専攻2年の廣野陽太君（古澤・二瓶研）の作品「Superimpose Poche」が「畑友洋賞銀賞」と「山口陽登賞銀賞」。建築学専攻1年の河部卓也君（今村研）の作品「縁取る居場所」が「長坂大賞佳作」。建築学専攻2年の宇田百孝君（佐藤光彦研）、菊池毅君（今村研）の作品「風の居場所」が「みかんくみ賞佳作」。

BOOK & MAGAZINE

『モダニスト再考 [海外編] 建築の20世紀はここから始まった』

田所辰之助教授、矢代真己大教授が執筆した『モダニスト再考 [海外編] 建築の20世紀はここから始まった』（彰国社編、彰国社）が刊行された。田所教授は「ペーター・ペーレンス 芸術/技術、その切断の狭間で」を、矢代教授は「マルト・スタム近代『パウエン』の殉教者あるいは虚空に消えたアヴァンギャルド」、「カレル・タイグ『構成』の詩学を説いたイデオログ」を執筆した。

『シェア空間の設計手法』

佐藤慎也教授、古澤大輔助教、雄勝スタジオ／日本大学が寄稿した『シェア空間の設計手法』（猪熊純・成瀬友梨編、学芸出版社）が刊行された。佐藤教授と古澤助教ほかの建築作品「3331 Arts Chiyoda」、古澤助教ほかの建築作品「中央線高架下プロジェクト」、雄勝スタジオ／日本大学の建築作品「波板地域交流センター」が掲載されている。

「新建築 住宅特集」2017年1月号

古澤大輔助教の建築作品「バルコニービル」が、「新建築 住宅特集」2017年1月号（新建築社）に掲載された。特集「最新住宅プロジェクト19題」の中で、今後竣工する注目の最新住宅プロジェクト19作品のひとつとして掲載されている。

「TOTO通信」2016年秋号

古澤大輔助教の建築作品「中央線高架下プロジェクト（コミュニティステーション東小金井＋モビリティステーション東小金井）」が、「TOTO通信」2016年秋号の特集企画「社会資源の発掘」に紹介された。

[連載] 私と建築 vol.87

異文化を知る

text=本杉省三 特任教授

人は何故建築するのだろうか？ 同じ材料を使いながら違う姿がつくられる理由は？ 大学に入ったときもそれからあまりそんなことは考えなかった。進化論的な説明を素直に受け入れ、「合理性」「経済性」というキーワードで括られる理念を当然のこととしてきた。高校が鎌倉だったこともあり、友人に誘われて寺社巡りをしていたときに出会った神奈川県立近代美術館（1951/坂倉準三）、その後の神奈川県立音楽堂・図書館（1954/前川國男）、どちらもスマートで美しいと感じた。大学時代、学友に連れて行ってもらった代々木オリンピックプール（1964/丹下健三）、初めて入ったときは息をのんだ。それらの感動はいつまでも記憶に残る。モダニズムという思想のもとにつくられた建築、その純粋さに引き込まれた。



王宮（正面、今は居城ではない）の麓につくられたレーの町（標高3,650m）。ここを拠点におんぼろタクシーで周辺のゴンパ巡りをした。建物はすべて日乾し煉瓦。

今にして思えば、合理性・経済性だけで説明できない人々の思い、情熱が建築には詰まっていると知りながら目をつむってきたように思う。建築を理解するためには完成形を見ているだけでは不十分で、そのプロセスにも着目しなければならない。つい最近訪問した設楽神楽・歌舞伎の場づくりもその好例だ。たった1日、人に喜んでもらうために労を惜しまない人たち、そこに建築する意思を見ることがができる。「人は得るもので生計を立て、与えるもので人生を築く」（W.チャーチル）のだ。建築にそうした人の意思を感じる時ほど嬉しいことはない。日本の近代建築は外からのものだし、衝撃を受けたインドもその後留学したドイツも異文化だ。それらを知ることによって僕は育ててもらった。わからない物事を想像力逞しく補う、そこからまた新たな発想が生まれる、そう思える。



インド旅行の帰路に寄ったダッカの町は、しばしば洪水に見舞われることで知られる。独立後だったが、Lカーン設計の国会議事堂もそのときは難民収容所になっていた。

学生最後の年に行った初の海外旅行インドで見たもの体験したこととはそれらと異なり、まるで説明できないものだった。欧米の価値観で誕生したモダニズムの格好よさを認めながらも、その価値観と異なる文化に憧れた。SD誌に掲載されていた飯塚キヨの記事に刺激され、ラヴィ・シャンカルらのシタール音楽が異文化気分を後押しした。飛行場に着いたそのときからほぼひと月、行く先々の都市・建築・空気・匂い・言葉・音・人・食事……すべてカルチャーショックだった。歴史建築の凄さと目の前の今とのズレに混乱するばかりだった。次のインド・ラダック旅行では、ラマ教寺院と風景の魅力に誘われ、巻き尺で幾つものゴンパを採寸した。法隆寺につながる歴史の場所にいるというだけでワクワクした。素朴さの中に文化的な原型を見て嬉しかった。人は交流なしに生きて行けないという証だった。



設楽神楽「朝田楽」の様相（昔は朝まで夜通し行われたことからそう名づけられているらしい）。天井部分に見えるのが、翌日行われる歌舞伎用の仮設観客席屋根で、周囲には棧敷席もつくられている。

もとすぎ・しょうぞう：1950年神奈川県横浜市生まれ。鎌倉学園鎌倉高等学校卒業。1972年日本大学大学院理工学研究科修士課程修了。1972年日本大学理工学部助手。1977～81年文化庁文化部嘱託・非常勤職員（第二国立劇場設立準備調査担当）。1981～83年ベルリン自由大学演劇研究所留学、ベルリン・ドイツオペラ及びシャウビューネ劇場特別研究員、DAAD（ドイツ学術交流会）奨学生。1999年日本大学理工学部教授。

Contents

02 [SPECIAL FEATURE]

建築学科へようこそ！

40人の先生を知る2つの質問

14 速報！2016年度に受賞した

修士論文・設計&卒業研究・設計12

18 [REPORT]

OBOGと学生との懇親会

オウケンカフェ #34, #35

20 [NEWS & TOPICS]

・2017年度、新任紹介

・人事（建築学科、短大）

・第1回学生住宅プランニングコンテストにおいて建築学科の池田貴大君と矢坂研二君が審査員特別賞を受賞

・第10回JACS全日本学生建築コンソーシアム「住宅設計コンペ2016」において建築学科の市ノ川貴之君、伊東亮祐君、稲庭香歩さんが佳作を受賞

・第3回関東学生景観デザインコンペティションにおいて建築学科の飯嶋貴太君と伊東亮祐君が佳作を受賞

・Drawing of the Year 2016において建築学専攻の菊池毅君がSpecial mention（特別賞）を受賞

ほか

22

[Architecture & Me]

vol.87 異文化を知る text=本杉省三 特任教授

24

[Visit & Criticism]

学生建築探訪 vol.1 「すみだ北斎美術館」へ行く！

SHUNKEN

2017 Apr. Vol.45 No.1

「駿建」

発行日：2017年4月1日

発行人：中田善久

編集委員：佐藤慎也・宇於崎勝也・宮里直也・井口雅登・古澤大輔・堀切梨奈子・宮田敦典・
山崎誠子・廣石秀造

編集・アートディレクション：大西正紀+田中元子/mosaki

発行：東京都千代田区神田駿河台1-8-14日本大学理工学部建築学科教室

TEL：03(3259)0724

URL：http://www.arch.cst.nihon-u.ac.jp

※ご意見、ご感想は右記メールアドレスまで<shunken@arch.cst.nihon-u.ac.jp>

Visit & Criticism

学生建築探訪 vol.1

「すみだ北斎美術館」へ行く！



- ♥: あった、あれだ。え、こんな小さかったの!?
- ♠: 逆にそんな大きいと思ってたの? (笑) これくらいでしょう。
- ♣: 線路のすぐ隣なんだね。なんとなくグレーなイメージはわかるなあ。
- ♠: ファサードが鈍く反射しているのが、綺麗だね。というか、どこから入るの?
- ♥: ここだよほら、「入口」って書いてある。わかりづらさはあるけど。
- ♣: (全員で入る) ん〜、狭くない? 全体が小さいのはいいんだけど、入った瞬間に狭いと感じてしまうのはどうなんだろう。
- ♠: いやいや、これくらいのスケール感のほうがいいんだよ。斜めのガラス壁に景色が複雑に映り込んでるのが、綺麗じゃん。



「すみだ北斎美術館」(設計: 妹島和世/2016)
〒130-0014 東京都墨田区亀沢2丁目7-2
開館時間: 9時30分~17時30分

♥: 飯島貴太 (M1 古澤・二瓶研)
♠: 中村歩香 (M1 古澤・二瓶研)
♣: 小野良希 (M1 古澤・二瓶研)



♥: 俺も狭いように感じるけど、透明な印象のおかげで威圧感はありませんよ。斜めに切り取られたスリットは、内部にこうして現れてくるんだね。



- ♥: 隣接する公園は、だいぶ広々としているね。これって、1階にある部屋は基本的に市民に開放されてるのかな?
- ♠: どうやらそうみたいだね。といっても、講堂や図書資料室から日常的に遊びに来る感じではなさそう。
- ♣: とりあえずあの蜘蛛の巣みたいな遊具に行ってみようよ!

今 年度より、駿建の裏表紙には「学生建築探訪」を連載することとなった。本企画は私たち学生が、そのときどきの旬な建築を訪れ、紹介から批評までを執筆するというものだ。

第1回は、2016年11月にオープンした「すみだ北斎美術館」。『GA JAPAN144』や『日経アーキテクチャ 2017年1月12日号』の表紙を飾った注目の建築である。設計者は妹島和世さん。日本を代表する建築家のひとりであり、世界的に活躍する女性建築家のひとりとしても知られる。また、西沢立衛さんと共同で SANAA を主宰し、建築界のノーベル賞と言われるプリツカー賞も連名で受賞している。

妹島さんの作風について端的に語るならば、「軽やかで透明」となるだろうか。ガラスなど透過性のある素材で建築が建ち上がってくるイメージが強い。しかし、透明さとは、何もガラスが多用され

ているだけという話ではない。コーリン・ロウの言葉を借りれば、リテラルな透明性(ガラスなどの使用による実際的な透明さ)だけではなく、フェノメナルな透明性(現象として現れる透明性)が妹島さんの建築にはある。妹島さんの建築が有する視認性のよさは、建築全体をつくる構成の明瞭さへつながる。

例えば SANAA の代表作のひとつ「金沢21世紀美術館」は、高さを抑えた円盤の中に、ホワイトキューブの展示室がばらまかれた構成だが、曲面によるファサードがカーテンウォールによってつくられることで、ホワイトキューブによる美術館としてのインテリア(=展示空間)とエクステリアの間にバッファー空間をつくり出すことに成功している。このバッファーは、利用者が自由に使うことができる場になっていて、美術館というビルディングタイプを越えた日常の場にもなっている。

まさにリテラルな透明性がフェノメナルな透明性に寄与しているのだ。

それでは、「すみだ北斎美術館」はどうだろうか。淡い鏡面のアルミパネルでつくられたグレーのファサードは、透明感からはほど遠い印象を受ける。もちろん、葛飾北斎の絵を専門とする美術館として、文化財を守る(展示室に自然光を入れることができない)という機能が建ち現れているということなのだろう。アルミパネルとスリットは、マッスなボリュームと切り込みという構成の明瞭さをつくり、内部には景色を望める視認性のよい空間をつくり出している。展示室の機能を担保しながら、自然光が注ぎ込む気持ちのよい空間をつくるため、展示室とホワイエという相反する要素を包括する明瞭な構成のための立ち振る舞いと考えれば納得である。いずれにせよ、今までの妹島さんの作風と少し違っていることは確かである。

「駿建」では、在学生、教員、非常勤講師の皆さまからの、コンペやコンクール、学会、スポーツ大会、その他の受賞・表彰に関する情報提供を下記メールアドレスにて受け付けています。<shunken@arch.cst.nihon-u.ac.jp>